



虹のマーチ

2013.2
第24号

川越地区消防組合

応急救護訓練



救出救助訓練



消火訓練

実際に、平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、約95%の方が自力による脱出や、家族・友人・隣人に救助されており、東日本大震災でも、この「自助」・「共助」により、多くの方が救助されました。

発生を防ぐことが難しい地震や台風といった災害でも、住民同士の協力と助け合いで、その被害を最小限にすることが出来ます。地域住民が団結し、防災意識の向上を心がけ、災害への備えをすることが、防災力向上への大きな一歩につながるのです。

「天災は忘れた頃にやってくる」とこの言葉を忘れずに、日頃から防災対策を心がけましょう。

消防局警防課 TEL 2222-5000-1

【公助】



国や地方公共団体などが支援すること

【共助】



地域や隣近所が助け合って地域の安全を守ることに

【自助】



避難行動の事前確認などで自分の身を守ることに

◆防災に必要な3つの力◆

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、間もなく2年が過ぎようとしています。この未曾有の大災害は、私たちに自然の持つ力の恐ろしさを知らしめるとともに、深い悲しみを残しました。

私たちは、過去の災害からどんなことを学び、どのように活かすことができるでしょうか。

大規模災害では、同時に多数発生する火災や、道路寸断などにより、消防や公共機関の有効な初動対応に時間を要する可能性があります。そのため、このような大規模災害の被害を最小限にするためには、次の3つの力が必要不可欠です。



「あの日を忘れない」
震災から学ぶべきこと

大きな地震が発生すると、広い地域で一斉に火災などの災害が発生することが予想され、その災害の多さや道路の損壊状況などにより、消防隊が災害現場に到着するまで時間がかかることが予想されます。
そこで、地域みなさんに心がけていただきたい地震対策を紹介します。

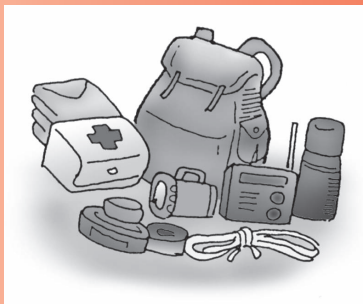


～みんなでやろう！地震対策～

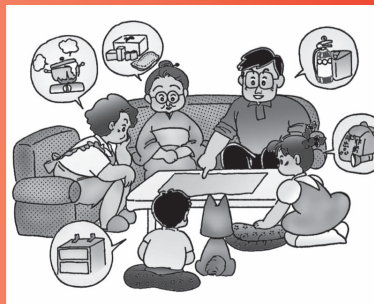
事前の備え



◎普段から、家具などの転倒・落下防止を図る。



◎非常用品をそろえ、最低3日分の食料も準備する。



◎避難場所や、安否の確認方法を家族で話し合う。

緊急連絡先など、大事な事は防災メモにまとめましょう。



事後の対応

単独行動はとらず、みんなで協力することが大切です！



◎近隣の住宅に呼びかけ、安否を確認する。



◎ラジオや携帯テレビから正しい情報を得る。



◎近隣の人達と協力し、ケガ人の救出・救護をする。



消防局指揮統制課 TEL226-7408

大きな災害が発生すると、消防車や救急車を要請する数多くの119番通報があります。その中には電気・ガス・水道などに関する問い合わせも多く、緊急車両の出場の遅れや妨げになることがあります。

あらかじめ防災メモに電気・ガス・水道といったライフラインの連絡先を書いておくことにより、間違いのない確認、問い合わせができます。

また、防災メモに住所と連絡先を記載すれば、災害発生時だけでなく、火事や突然の病気・ケガによる119番通報でも必ず役立ちます。

防災メモを見ながらの、正確で落ち着いた通報は、きっとみなさんの安心と安全を守ってくれることでしょう。『防災メモ』を作りましょう！



防災メモの記入例

- ◎ 家族の集合場所と避難場所
- ◎ 家族全員の学校や職場などの連絡先
- ◎ 避難時持ち出し品のチェックリスト
- ◎ 官公庁や病院、最寄りの消防署・警察署の連絡先
- ◎ 電気・ガス・水道の問い合わせ先

みなさんは、突然の災害に備え、どんな対策をしていますか。いざという時、冷静な行動がとれるように、ここでは、自分と家族の情報や緊急連絡先などを記載する『防災メモ』を紹介します。

防災メモには、次のようなことを記入して、電話の近くに置いたり、カードに印刷して身につけたりしておくとお勧めです。



防災メモを作っておこう!!



平成25年 春の全国火災予防運動が始まります!!

実施期間 3月1日(金)~3月7日(木)



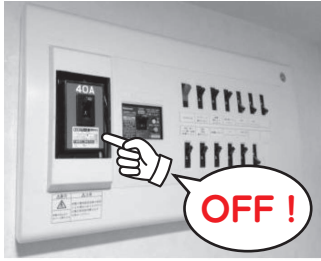
通電火災の恐怖

みなさんは「通電火災」という言葉をご存知でしょうか？ 通電火災とは、地震や台風といった大規模災害などで発生する停電の後、電気が復旧する際に発生する火災です。

停電時、電気製品の周りに何らかの理由で可燃物などが接触していると、電気が復旧した際、その可燃物などから炎が上がり、燃え広がるのが原因だと言われています。

大きな地震が発生した場合は、特に注意が必要で、地震後の停電の復旧は、火災に至る可能性が非常に高くなるのです。

これは、大きな揺れの影響により家の中の物が散乱してしまうため、電気ストープや電気照明の上に物が覆いかぶさったり、アイロンなどの電気製品を使用したまま、スイッチを切らずに避難してしまったり、思いもよらないことが発生してしまうからです。



この火災を防ぐポイントは、『避難の際は、必ずブレーカーを落とすこと』です。地震などで避難する際は、火の元であるガス栓を閉め、電気のブレーカーも忘れずに落としましょう。また、ブレーカーを戻すときは、電気製品の周りに物がなければ確認してから行うことも大切です。

普段からの防災の心がけがあなたの命を守ります。「通電火災」の恐怖、覚えておきましょう。

消防局予防課 TEL 222-0744

火災からあなたを守る防災製品

防災製品は、火災による逃げ遅れや死傷者を防ぐ目的から作られたもので、高い防災効果により、小さな火に接しても燃え上がらず、もし着火しても燃え広がりを防ぐという特徴を持っています。

炎の拡大を防ぎ、初期消火や避難などを行なう貴重な時間を作ってくれる防災製品には、日常生活に潜む様々な火災の危険に対応できるように、次のような製品があります。



- 布団や毛布などの寝具類
- パジャマ、スウェット、エプロンなどの衣類
- カーテンやカーペットなどの布製家具
- 椅子、ソファ、ベッドなどの布張家具
- 防災頭巾や非常用持出袋などの防災製品



防災製品には上記のラベルが付いています。パジャマやカーテンなどを買替えるときには、安心安全のため、ぜひ購入を検討されてはいかがでしょうか。

日頃から、私たちは燃えやすいものに囲まれて生活しています。日常生活でのちょっとした油断が原因となつて、多くの火災が発生しています。家庭や職場の防火対策として、防災製品の上手な活用をおすすめします。

● 防災製品に関する詳しいお問い合わせ先

【公益財団法人 日本防災協会】
TEL 03-3246-1661
※ホームページでも詳しい情報が公開されています。

消防局予防課 TEL 222-0744



救え、多くの尊い命を！ ～災害トリアージ基礎訓練を実施～

平成24年10月11日、12日の2日間、当消防組合では初めての「災害トリアージ基礎訓練」を川島消防署で実施しました。

災害トリアージとは、負傷者の重症度や緊急度に応じて、応急処置や搬送の優先度を区分するために用いられるもので、1人でも多くの人を救い、1日も早い社会復帰をかなえることを最大の目的としています。

大きな地震や大規模な交通事故など、短時間に多数の負傷者が発生した場合でも、人員、機材といった限られた対応力を最大限に活用し、効果的に救命率を高めることができます。

今回の訓練は、災害発生の初動時に必要となる、けがの程度に合わせた応急処置と、トリアージの基礎的な知識、技術の習得を目的に、職員52人が参加しました。



当消防組合管内は鉄道や高速道路のほか、主要幹線道路も多く、大規模な事故などで多数の負傷者が発生する災害に備えねばなりません。

多くの負傷者が発生する事故や災害に直面しても、これらの技術、能力を的確に発揮できるよう今後も訓練を継続し、住民の安心、安全を確かなものにしていきます。

消防局救急課 TEL 222-0160

川越市消防団だより

第二号

火災消火活動訓練を実施

川越市消防団では貫井達也団長指揮のもと、平成24年9月から10月の2ヶ月間にわたり、当消防団では初めてとなる実践形式の訓練「火災消火活動訓練」を川越北消防署で行い、各分団役員および機関員の6名ずつを対象に、全12分団が訓練を実施しました。

この訓練は、実践的かつ応用的な消火活動を想定し、団員の現場活動上の知識習得、技術向上を図るとともに、各分団相互の連携を強化し、火災消火活動における安全性、確実性および迅速性を確立することを目的として実施しました。

訓練内容は「折り島田ホースの作成・延長・撤収要領」、「二又分岐金具の取り扱い要領」、「操作時における確認呼称の徹底」、「現場到着時の水利部署要領」、「ホースカーでのホ

ース延長要領」等で、現場到着からの水利部署、ホースカー・二又分岐金具を用いたホースの設定、放水開始までの、火災消火活動における一連の動作を体系化したものです。

これまで、放水訓練やポンプ車操作訓練などは行ってきましたが、火災現場で活用されている実践的な「折り島田ホース」、「ホースカー」、「二又分岐金具」を用いた訓練は実施したことがありませんでした。訓練に参加した団員からは「始めはとまどいしましたが、実際の火災現場で必要な活動をしっかりと身につけることができました。」、「自分の行動を大きく呼称することで、連携する相手との動作の確認ができ、大変勉強になりました。」などの声が聞かれ、充実した訓練になりました。

今後は、訓練で習得した知識・技術を各分団に持ち帰り、分団員全員で復習するとともに、実践に活かしていきます。



折り島田ホースの作成訓練



二又分岐金具を使ったホース延長訓練



ホースカーでのホース延長訓練

活躍する女性消防団員

川越市消防団女性団員は、「普通救命班」・「防火啓蒙班」・「広報班」の3班で活動しています。消防団だより第2号では、防火啓蒙班の活動を紹介します。

『体験型防火防災教室』

川越市内の学童保育室で、煙発生時の避難訓練、119番通報の仕方、防災リュックの中身の確認、防災〇×クイズなどを行いました。子供達ももしもの時、用意しておいたリュックを背負い、口をおさえて煙の下をくぐり、安全な場所に避難して、119番通報をする。「自分の命は自分で守る」ことのできる子供の育成を目指し、今後も防火防災教室を行っていきます。

『住宅用火災警報器普及啓発寸劇』

「おばあちゃんに住宅用火災警報器を届けよう！」という新しい台本を作り、住宅用火災警報器普及啓発の寸劇を披露しました。着ぐるみのミミちゃん、トラ吉君と一緒に、警報器の設置の仕方や設置場所などについてやさしく説明し、大人から子供まで楽しくわかりやすい内容となっています。設置が義務化された住宅用火災警報器の普及が広まり、火災で命を落とす人が一人でも少なくなることを願い、これからも普及啓発活動に力を入れて行きます。



煙に見たてた毛布の下をくぐる練習



住宅用火災警報器普及啓発の寸劇

地域に密着した消防団活動

名細分団は「地域との連携」を確かなものにするため、平成24年9月9日に実施された鯨井自治会自主防災訓練に参加し、山崎分団長を中心に地域一体となった防災意識の啓発を図りました。

訓練は、大地震発生を想定し、同地区の住民およそ180人が鯨井自治会館へ一時避難し、その場で決められた班に分かれ、分団消防車の先導のもと川越西消防署名細分署まで移動する避難誘導訓練と、消防職員と協力し、初期消火訓練、煙体験ハウスでの火災避難訓練、AEDを使用した応急手当、分団消防車での放水体験などを行った後、自治会館に戻り、非常食のアルファ米を調理して炊き出し訓練を行いました。

今回の訓練を通じて、地域住民みなさんの防災、減災に対する意識高揚が図れ、災害発生時には「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識をご理解頂けたとともに、消防団も地域の一員としてのつながりを深めることができました。

川越市消防団は、引き続き各自治会と連携し、地域防災、減災のために地域に密着した活動を展開していきます。



一時避難場所での班割誘導



避難誘導を分団消防車で先導



分団消防車からの放水体験



消防車積載の救助資器材の説明

団員紹介

川越市消防団では、新しく川越市内に転入してきた方や、大学生も団員になることができます。今年新たに入団した、やる気いっぱいの新人を2人紹介します。

【第3分団 本間 幸二(サラリーマン)】

趣あるまちの風景に惹かれ、川越に移り住みました。震災関連の番組で地域社会に貢献する消防団の活動を知り、深い感銘を受け、入団しました。

当初は不安の連続でしたが、親切な先輩方の指導のおかげで、馴染むまで時間はかかりませんでした。また、普通に働いているだけでは体験できない様々な経験が積めるので、本当に良かったです。

今後も地域の防災を担い、有事の際は率先して地域住民を守るよう努力します。



【団本部 深瀬 由里子(大学生)】

地元のバレーボールチームに所属しており、同じチーム内の女性団員に「やりがいがあるよ」と誘われ、見学に行った定例表彰式での防火啓蒙寸劇が、消防団との初めての出会いでした。

入団後、各種訓練や講習などを受け、防火啓蒙寸劇で着ぐるみを体験するなど、活動を重ねていくうちに、やりがいと楽しさを感じています。

これからも川越のまちを守る消防団員として頑張っていきます。

私たちと一緒に消防団活動をしてみませんか？ 興味のある方は、ぜひご連絡ください。

問い合わせ：消防局総務課 消防団担当 Tel.222-0741

川越市消防団

検索



川島町消防団だより

第二号

消防団長あいさつ



消防団長 宮前 守

平成24年4月1日に川島町消防団長を拝命いたしました宮前守です。消防団だより第二号の掲載にあたり、ごあいさつをさせていただきます。

現在、川島町消防団は、団員百十七名（女性団員七名）で川島町民の皆様への生命、身体、財産を守るため、日々活動を行っています。

平成22年に採用した女性消防団員は、活動3年目を迎え、防火広報、防火訪問、救急講習など活躍の場を広げています。

また、私たち消防団は水防団としても活動しています。川島町は四方を河川に囲まれていますので、水防演習や堤防の点検などを毎年行っており、河川の増水時には堤防の警戒なども実施しています。

今後も、災害に強いまちづくりのため、地域防災のリーダーとして努力して参りますので、町民のみならずご支援、ご協力をお願いします。

消防ポンプ操法認定審査会

平成24年8月5日、川島町上猪地内の埼玉県中央防災基地で、第17回埼玉県消防協会川越支部消防ポンプ操法認定審査会が行われました。

消防ポンプ操法とは、前方に置かれた標的を火点と想定し、ホースを延長して放水するものです。審査会では、標的を倒すまでの所要時間や技能の正確さなどの総合評価に応じて、「秀級」・「上級」・「中級」の認定を受けます。

川島町、川越市消防団の全分団から各1チーム、計18チームが参加し、訓練成果を發揮する本審査会への出場にあたり、川島町消防団では、5月から訓練を開始し、3ヶ月間の訓練を積んで当日に臨みました。

審査は大変厳しいものでしたが、日ごろの訓練の成果を發揮し、川島町第四分団が1位、同第五分団が2位、同第二分団が3位という成績を収めました。また、川島町消防団六個分団全ての分団が「秀級」と認定されました。

今後もポンプ操法同様、地域防災に役立つ技術を磨いていきます。



火点へ向けて放水！



ポンプ操法の様子

女性消防団員の活動紹介

女性消防団員7名は、かわじま春まつりや防災訓練など川島町の各種行事に参加し、防火広報活動や、応急手当の普及啓発活動を行っています。



心肺蘇生法の指導

ママ消防団員、頑張ってまーす！！

子育て・仕事・消防団員にと頑張るママ消防団員を紹介します。子供達も消防団員として活動するママを応援してくれています。



関根団員 中嶋団員 荒井団員

ママ、カッコいい！
これからもがんばってね！！

川島町消防団 活動紹介

川島町消防団には、第一分団から第六分団までの六個分団があります。今号では、第一、第二、第三分団の活動をご紹介します。

第二分団【伊草地区】



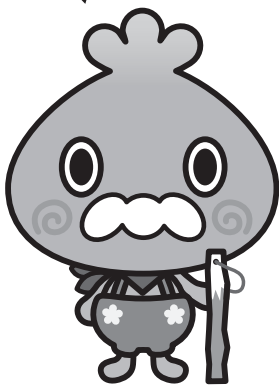
今年度の水防演習は、第二分団の地元、伊草地区で開催されました。

ここ数年、全国各地では異常気象による豪雨が度々発生し、河川の氾濫により甚大な被害が報告されています。川島町は、四方を河川に囲まれており、ひとたび豪雨に見舞われれば、河川の氾濫や洪水の危機にさらされます。

水防演習を通じ、水害時に行う様々な工法を改めて学習することができました。第二分団では、今回の経験を活かし、今後もいざという時のために備えていきます。

川島町消防団は、ふるさとの安全と未来を守る消防団員を募集しています。

問い合わせ 川島消防署消防課
TEL 297-1891



川島町マスコットキャラクター
かわべえ

団員募集中!!

第一分団【中山地区】



第一分団では、毎月2回、火の用心を呼びかけながら受け持ち区域を巡回し、火災予防の啓発に努めています。また、災害の発生に備えた毎月の機械器具点検、ポンプ車操法訓練のほか、各種消防訓練や普通救命講習などにも積極的に参加し、知識・技術の習得とともに、災害に対応できる人材の育成に励んでいます。

現在、第一分団では、一緒に活動していただける団員を募集しております。ぜひ、私たちと一緒に地域住民の安心・安全を守っていきましょう。

第三分団【三保谷地区】



平成24年9月2日、三保谷小学校で第27回川島町防災訓練が実施されました。

今年の訓練は大震災を想定し、三保谷地区の区長さんを中心に住民の安否確認、避難誘導、救助訓練など実践的な訓練が行われました。

私たち第三分団も、地域住民の方々と一緒に訓練に参加し、『自分の地域は自分達で守る』ことの重要性を改めて感じました。

今後も、引き続き訓練に励み、受持区域の巡回などを実施して、安心して暮らせるまちづくりを目指していきたいと思えます。

平成23年度決算

消防局総務課 TEL 222-0741

歳入

負担金 (消防行政を運営するのに必要な負担金 (組合を構成する川越市・川島町からの負担金))	4,465,513,659円 (94.8%)
使用料及び手数料 (消防関係検査等の手数料等)	4,755,882円 (0.1%)
財産収入 (基金運用の利子等)	633,346円 (0.0%)
繰越金 (前年度から持ち越されたお金のこと)	12,382,002円 (0.3%)
諸収入 (受託収入等の他の収入科目に含まれないもの)	38,645,319円 (0.8%)
組合債 (金融機関等からの借入金)	137,500,000円 (2.9%)
国庫支出金 (一定の事業に使いみちを特定して国から交付されるもの)	51,430,000円 (1.1%)
歳入合計	4,710,860,208円

歳出

議会費 (議員報酬等の議会運営費)	5,210,557円 (0.1%)
総務費 (組管理者・公平委員・監査委員等の特別職の報酬等の経費)	2,724,533円 (0.1%)
消防費 (消防・救急等に必要な経費及び消防施設の建設費等)	4,294,665,682円 (93.4%)
公債費 (借入金の元金、利子の返済のための経費)	295,327,349円 (6.4%)
歳出合計	4,597,928,121円

※比率(%)の合計は、端数処理の関係で100%とならない場合があります。「0.0」は、該当数値はあるが表示単位未満のものです。

消防局総務課
TEL 222-0741

川越市市民会館で定例表彰式と消防音楽隊定期演奏会を開催します。入場無料。
開催日 平成25年3月3日(日)
川越地区消防組合定例表彰式
 開式時間 午後1時
 閉式時間 午後2時15分
 管理者(川越市長)表彰、消防団長表彰
川越地区消防組合消防音楽隊第8回定期演奏会
 開演時間 午後2時30分
 閉演時間 午後4時(予定)
 ぜひ、この機会に消防音楽隊の演奏をお聴きください。



川越地区消防組合定例表彰式
消防音楽隊第8回定期演奏会

消防局予防課
TEL 222-0744



昨年の幼年消防クラブ絵画展の様子

【開催日時・場所】
 ●3月2日(土) 午前10時30分～午後4時30分
 アトレ川越6階コミュニティルームA
 ●3月3日(日) 午前11時00分～午後4時00分
 川越市市民会館
 ※開催日により、時間と場所が異なりますので、ご注意ください。

毎年、春の全国火災予防運動期間中に、幼年消防クラブの絵画展を開催しています。園児たちの描く個性あふれた消防車などの絵をぜひご覧ください。皆さまのご来場をお待ちしています。



幼年消防クラブ絵画展

虹色通信 ～ 最新泡消火装置『CAFS(キャフス)』～

当消防組合は、平成24年度の消防ポンプ自動車の更新にあたり、最新の泡消火装置『CAFS(キャフス)』を搭載した消防ポンプ自動車を川越中央消防署高階分署に配備しました。この車両は、600リットルの小型水槽を備え、CAFS装置を使って少量の水と消火薬剤を混合し、圧縮空気を送り込むことで、消火泡を放出することができます。

泡による消火は、燃焼物への浸透性が高く、広範囲に付着することで高い冷却効果が得られ、従来よりも少ない水量で消火活動を行なうことができます。また、使用する消火薬剤は、家庭で使われる食器用洗剤と同等の成分ですので、人体、環境への影響もありません。

また、狭い道の多い高階分署管内でも、小型で小回りが利くこの車両は、短時間で火災現場に到着することができ、優れた消火能力を発揮することができます。

消防局警防課 TEL 222-5891



泡消火装置を搭載した消防ポンプ自動車(高階2)

水分量や濃度が調節可能な消火泡

消防局総務課
TEL 222-0741

消火活動の協力に対し、消防局長から感謝状が贈られました。
 ・川越市大字下赤坂地内 福嶋人美さん
 ・同 福嶋勇貴さん



ありがとうございます

消防だより

虹のマーチ

2013.2
第24号

□発行/川越地区消防局 総務課

〒350-0823川越市神明町48-4 TEL 049-222-0741

http://www.119kawagoechiku.jp/

火事・救急・救助は**119**番 消防テレホンサービス TEL 223-0700 *かけまちがいにご注意ください。

平成24年中の火災・救急・救助件数

火災 113件
 救急 15,609件
 救助 155件

119番通報回数は24,615件でした。

